



# 道しるへ

令和5・1  
No.63

「この道の向こうには、夢がある」



- 新年のごあいさつ [会長]、食料品・生活必需品等配布事業 ..... P.2
- 新年のごあいさつ [知事]、知事と新入学児童等のつどい ..... P.3
- 京都府母子寡婦福祉大会、京都府社会福祉大会表彰 ..... P.4 ~ 5
- 母子部地域別交流会、ブロック別懇話会 ..... P.6
- 支会からこんにちは ..... P.7
- 知っとコーナー、指導者研修会、あとがき ..... P.8



「笑顔の向こうに」

京都府母子寡婦福祉連合会 会長 佐竹 幸子

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には令和5年の新春をお健やかに迎えにいられたこととお慶び申し上げます。

今年の冬は、寒さが厳しく雪も多いとの予報、また、コロナ感染第8波に加えインフルエンザも流行の兆しといわれています。今年も各自が感染症対策をし、楽しく母子会活動をしていきたいと思ひます。

さて、去る10月23日京都府母子寡婦福祉研修大会及び全体研修会を、西脇知事様をはじめ多数の来賓の臨席を賜り3年ぶりに開催することができました。支会長・母子連絡員や会員の皆様には開催準備や当日の参加まで、ご協力いただき感謝申し上げます。北部・中部・南部から集まった会員の皆様が、笑顔で会話できたことは微笑ましい光景で大変嬉しく感じました。アトラクションは、淇陽学校生徒のみなさんの心に響く和太鼓演奏で、涙する人もあり、『また明日から頑張ろう』と心新たに感動のひと時を過ごしました。講演は村井琢哉氏にヤングケアラーについて丁寧にお話しいただきました。人数制限をしておりましたが、今年は多くの会員の皆様に参加してもらえよう計画したいと思ひます。

また、全国大会も3年ぶりに滋賀県で開催され、全国の母子会の活動について、各種支援策を利用した就職・ステップアップした事例、母子家庭を応援する母子会活動内容などを

聞くことができました。それぞれの支会で参考にしていただきたいと思ひます。令和6年からは全国を4ブロックに分け、近畿大会は中部ブロックと合同の大会となります。当番府県として開催することが少なくなります、つないでいくことの大切さを考えなければなりません。

歴史的円安や世界規模の社会・経済情勢の大きな変動の中、明るい兆しは見えませんが、またコロナ感染症は収束には至らず、経済的に困窮しているひとり親家庭の生活は、働けど働けど収入は安定せず、将来の生活設計に不安が増えています。そのような中、京都府では今年度もこどもの居場所を通じた『食料品・生活必需品等配布事業』を実施していただき、ひとり親の皆様の声は感謝と喜びに満ち溢れていました。心より感謝申し上げます。

以前から低収入であったことがコロナ禍で顕著に現れてきている今、ひとり親家庭の現状を伝え、未来を担う子どもたちが、夢と希望をもって健やかに育つよう、生活の安定と更なる福祉の向上を求めて声をあげてまいりましょう。

後になりましたが、いつも母子寡婦福祉に対する深いご理解と優しくご支援くださる西脇知事様をはじめ、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

結びにあたり、会員の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



食料品・生活必需品等配布事業

物価高騰や長期化するコロナ禍により困窮するひとり親家庭等を支援するため、今年度も京都府の事業として食料品・生活必需品の配布が行われることとなり、京都府母子寡婦福祉連合会もこどもの居場所を通じてこの事業に取り組み、こどもの居場所では食料品・生活必需品を、南部・北部の自立支援センターでは生理用品やマスク等を配布しました。受け取られた方からは、「物価高騰の中、本当に助かります。嬉しいです。」との声をいただき、この事業を機に母子会に入会された方もありました。

お米やレトルト食品、文房具など、育ち盛りのお子もたちやお母さんたちが笑顔になれるよう願っています。



食料品の値段は上がるのに、給料はそのままで家計を圧迫。子どもにお菓子を我慢させてました。



仕事から疲れて帰って、すぐ作れるレトルト食品は助かります。



令和4年11月5日(土)滋賀県民交流センター「ピアザ淡海」ピアザホールにて、令和4年度全国母子寡婦福祉研修大会(令和4年度近畿地区母子寡婦福祉研修大会)が開催され、参加しました。全国大会は3年ぶりの開催です。



「あたたかい京都づくり」へ邁進

京都府知事 西脇 隆俊

あけましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナとの闘いも3年になろうとしています。長きにわたり感染防止対策に取り組んでいただいている皆さま、そして、医療従事者をはじめ関係の皆さまに、心から感謝と敬意を表します。

昨年は新型コロナの拡大に加え、ロシアによるウクライナ侵攻や世界的な物価高、さらに記録的な円安などに見舞われ、今も社会生活への甚大な影響が続いています。こうした情勢の中でも安心して豊かに暮らし、将来に向かって夢を抱くことができるよう、「あたたかい京都づくり」を進めていくことを決意し、総合計画を1年前倒しして改定しました。同計画に基づく施策を令和5年度当初予算に盛り込みます。

「時が物事を変えると人は言うが、実際は自分で変えねばならない~They always say that time changes things, but you actually have to change them yourself~」。これは米国の芸術家アンディ・ウォーホルの言葉です。今年3月、いよいよ文化庁が京都で業務を開始し、明治維新以来

初の中央省庁移転が実現することとなりました。彼が言うように、この歴史的な出来事が私たちに何をもたらすかではなく、私たちがこの機会をどう活かしていくかが問われます。「文化の都・京都」の実現に向け、国と地方が連携して日本各地の文化に光を当て、世界へ発信し、ここ京都から新たな文化の潮流を起こしたいと考えています。

この他、「社会で子どもを育てる京都」の実現に向け、子育て環境日本一の取り組みを進化させてまいります。また、京都の強みである大学の「知」と学生の「力」を積極的に地域や企業に取り入れ、京都の活力を生み出してまいります。そして新名神高速道路開通や、大阪・関西万博開催などの好機を活かし、京都の発展に取り組んでまいります。

今年卯年です。その愛らしい姿と温厚な性質で「家内安全」を、跳躍する姿で「飛躍」を象徴するウサギの年にふさわしく、皆さまと共に「あたたかい京都づくり」へ邁進してまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

ひとり親家庭を励ます知事と新入学児童等のつどい

多くの子どもたちにお声かけください!

今年も京都府・府母子寡婦福祉連合会・府民生児童委員協議会の共催で、次のとおり開催されます。知事さんと一緒に親子でゲームを楽しめます。

- 日時 令和5年3月5日(日) 10:30~14:30(予定)
場所 ルビノ京都堀川(京都市上京区)
参加対象 新入学児童とその親(兄弟姉妹も一緒に参加していただけます。)
内容 お祝いの会(知事と一緒に親子でゲーム、記念品のプレゼント)あそびのひろば(子ども)、講演会(親)
申込方法 各地域母子会会長あてに申し込んでください。
申込期限 令和5年1月31日(火)



【とき】令和4年10月23日（日） 【ところ】ルビノ京都堀川

体験発表

母子会の取り組みに参加して 長岡京市三つ和母子会 坂田 姫夢



私は母子会を通してさまざまな経験をしました。私は小学1年生の時に居場所のバンブーガーデンに行き始めました。バンブーガーデンでは、スタッフの人たちと楽しくゲームをして遊んだり、近くの公園に行ったり、一緒にご飯を作って食べたりしました。その時間は本当に楽しくて、毎週行くのが楽しみになるくらい最高の居場所でした。しかし、私が小学5年生になろうとしていた頃、新型コロナウイルスが流行り始めました。その影響で学校なども休校になり、バンブーガーデンもお休みになってしまいました。その間は本当にさみしい気持ちでいっぱいでした。それから私が小学校を卒業した直ぐに、バンブーガーデンを再開するという連絡をもらい、私は中学校の制服でバンブーガーデンに向かいました。着いたときは少しドキドキしました。そしていざ、スタッフの皆さんに会ったら、「大きくなったね」「制服すごい似合ってる」と言ってもらいました。私はそのとき心がすごく温かくなり嬉しい気持ちでいっぱいになりました。今度は私がスタッフとしてバンブーガーデンに行こうと思いました。そして

バンブーガーデンのスタッフの皆さんに恩返しをしたいと思いました。他の取り組みでは、もう一つの居場所であるアイリスガーデンにも行ってました。私が小学生の時は、アイリスガーデンで外国人の先生と一緒に英語のかかるたや、すごろくなどを楽しく英語の勉強を学ぶことが出来ました。アイリスガーデンでは普通の塾とは違い、遊びながら楽しく勉強することが出来ます。アイリスガーデンに行ったおかげで英語は少し好きな教科になりました。他には、いちご狩りに行ったり、淡路島に行ったり、たけのこ堀りをしたりなど本当にたくさん初めてのことを経験しました。この母子会の取り組みなどがあつたおかげで、ひとりである時間が少なくなり、楽しい時間だけが増えました。そして色々なことを知るきっかけにもなりました。バンブーガーデンの皆さん、アイリスガーデンの皆さん、そして長岡京市三つ和母子会はじめ母子会関係者の皆様、今まで本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。



私の人生 人に感謝



子どもが2歳を過ぎた頃、単身赴任中の主人の「離婚したい」の一言を機に、調停を申し込みました。1年半後、離婚が成立しました。私の抱えていた問題は、①お金について、②孤独感、③子どもの将来の不安、④自分自身の生活、老後の不安でした。一番しんどかった時期といえば調停中、いつ終わるのかめどが見えない中、裁判所の嫌な空気。今振り返ると、息子との生活をするための準備期間だったんだなあと思っています。どん底に落ちた時、自然と助けてくれる人が、たくさん現れました。学生時代の友人、職場の仲間、地域のママ友、母親、たくさんの人達に、話を聞いてもらいました。忘れてはいけないのが、亀岡母子寡婦福祉会の前会長です。「元気か?」「最近、顔見せてくれへんやんか。」と、声をかけてくださり、たくさんのさりげない一言に、何度となく励まされました。調停期間中、離婚間際、離婚後5年ぐらひは、気持ちの整理が

亀岡市母子寡婦福祉会 廣瀬 和美

つかず、周りに迷惑をかけましたが、聞いてもらっているうちに、子どもとの二人家族の理想の家族像、子育て論を考えられるようになりました。調停中にひとり親家庭日常生活支援事業の支援員になりました。今では、亀岡市のファミリーサポート事業の『任せて会員』もしています。支援員登録のときに母子連事務局の方に、亀岡市の母子会を紹介してもらい、今では母子連絡員をしています。いきいきふれあい事業では、遊びだけの計画ではダメということでUSJでは補助金は出ません。でも、そこで働くキャストは、海外からのゲストに英語で会話されています。今、学校では、英語が必修。子ども達は様々な場面を見て、感じて、学んでいます。少し考え方を教えていただけないかなあと思います。物価が上がる中、子どもたちに、人並にいろいろな経験をさせてやりたいです。離婚してもう7年、今でもいろいろな方に、本当に支えて頂いています。本当に辛い時、一人で抱えこまないで、誰かに話しましょう。必ず自分の味方になってくれる人がいます。これからは、話を聞く側、声をかける側、誰かを支える側になりたいと思っています。

母子会との出会いから30年を経て



私が宮津市母子寡婦福祉会にお世話になったのは、30年ほど前で、小学校4年生、2年生、幼稚園の年長組の男の子を3人抱え、これからどうして生活し、子どもたちを育てていこうかと思悩んでいました。今まで通い慣れた学校や幼稚園が変わることにはためらいもありました。しかし、私一人で3人の子どもたちを育てていくには精神的にも経済的にも自信がなく、実家のある宮津に帰ることを決意しました。子どもたちにとっては突然の引っ越しや転校で、親の勝手に環境が変わり、振り回すことに申し訳ない気持ちでした。まず考えなければいけないことは住居と就職先で、住むところは行政にも相談しましたが、良い条件が見つかりませんでした。そのため、家賃の心配がないこともあり、私の祖父母が住んでいた古い一軒家に住むことに決めました。いろいろな面で我慢を強いられる状況でしたが子どもたちは不満を言うこともなくこの環境に馴染んでくれました。就職先に関しては、正規職員で採用してくれる職場を探すことでした。私は看護師免許を持っていますので、資格を活かして職場を探しましたが、正規採用の場合は夜勤もすることになります。夜勤をするにあたっては両親が協力してくれることになり、正規職員として就職することができました。月に7~8回の夜勤が

宮津市母子寡婦福祉会 加藤 弘子

あり、夕方からの勤務の時は両親に子どもを迎えに来てもらい実家で夕食とお風呂を、夜中からの勤務の時は、朝に両親に来てもらって学校に送り出してもらおうという生活を送りました。両親にはよくしてもらったと思っています。そのような中、母子会行事で最初に参加したのが「新入学児童のつどい」でした。会長さんともう一組母子家庭の方と電車で京都に行き、式典に参加して知事さんにお会いしました。記念品の目覚まし時計は大切に長く使わせていただきました。このような行事参加も母子会に入会していなければ経験できなかったことです。以後も行事にたくさん誘っていただき、バスや電車で遠方へ遠足に連れて行ってもらい、クリスマス会ではケーキのデコレーションを経験したりしました。また子どもの進学時には、無利子で貸していただける「母子父子寡婦福祉資金」で学費資金を借りることができて大変助かりました。今思い返すと、本当に母子会にはお世話になったと感謝しています。子どもたちも手を離れ、昨年定年退職を迎えました。それを機に近くに職場を変え、少し時間に余裕ができたので、母子会の役員をさせていただくことになりました。まだまだ経験が浅く、このコロナ禍の中で会員の方とも顔を合わせる機会が少ないですが、先輩方にいろいろ教えてもらいながら会の運営に貢献したいと考えています。

全体研修会の部

講演

演題：「ヤングケアラーの現状と課題について」 講師：NPO法人山科醍醐こどものひろば 理事長 村井 琢哉 氏

「家族のための家事や介護を担うことで、自分のための時間や夢をあきらめて育っていくヤングケアラーに私たちは何が出来るのか」、講師のお話からヤングケアラーの問題を改めて考えるきっかけをいただきました。



アトラクション

和太鼓演奏 淇心太鼓 (京都府立淇陽学校生徒のみなさん)

文化祭や地域活動の場において、迫力に満ちあふれたパフォーマンスをされている淇陽学校生徒のみなさんによる淇心太鼓で、大会会場を盛り上げていただきました。



初めて参加しました!!

「一度は会員の皆さんも京都府大会に参加できたら良いのにな」って思いました!各支会の方の話など聞いて視野を広げてみたら色々見えてくるものがあるし、同じような境遇の方ばかりだから共感できるし、子どもの為、自分の為にも頑張ろうって思えました。私は今回参加出来て良かったですし、実りある大会でした!

綾部市母子寡婦福祉会 大島 小代子

淇陽学校生徒のみなさんの太鼓が素晴らしく感銘を受けました。どんな理由や環境下であっても、全ての子どもたちの描いた夢が、経済的な理由や生活環境で諦めにならないよう、母子会の一員として声をあげていきたいです。

長岡京市三つ和母子会 会員

社会福祉事業・ボランティア功労者知事表彰で 4カ所の子どもの居場所が表彰受賞

令和4年9月9日(金)京都府長岡京記念文化会館で行われた第71回京都府社会福祉大会にて、こどもの居場所事業に取り組んでいる長岡京、宇治、木津川、舞鶴の4つの支会が社会福祉事業貢献者として知事表彰を受けました。これからも健やかな子どもの育ちを願って、居場所づくり事業に取り組んでいきましょう。



来年は、令和5年10月22日(日) 京都テルサで開催予定です。ぜひ、ご参加ください!

母子部地域別交流会

支会の枠を越えて、北部・中部・南部の地域毎に、母子会員が調理実習や工作、懇話会等を通して交流する機会を作り、会員相互の連絡や協力を密にすることを目的に活動しています。

北部

令和4年7月17日(日)  
参加者20人

宮津市母子寡婦福祉会 足立 清美

昨年度、居場所事業でお世話になった畳工房様に依頼をして、ミニ畳とコースター作りの体験をいたしました。畳・縁(へり)には様々な色や柄があり目移りし、選ぶところから楽しんでもらえました。専用の道具にも触れ、職人さんの指導のもと、自分の手で作り上げることができました。ミニ畳は飾ったり花瓶置きなどで、それぞれの楽しみ方があるようです。

参加された方より「良かったわ」など、嬉しい感想の声をいただきました。

体験後の懇話会では、各支会の活動について話し、お母さんたちから普段の生活での困りごとなどを聞いて交流をしました。他の支会で取り組まれていることを参考に、各支会がお互いに発展できるような交流ができたと思います。



中部

令和4年11月12日(土)  
参加者37名

京丹波町母子寡婦福祉会 里内 陽子

地元のスندグラス遊園地ジャーポランド様の御協力のもと、アイスクリームの形をしたブローチを親子で一緒に作成してもらいました。京丹波町新庁舎で開催したので、建物の中も見てもらうことができました。

親子でパーツ選びをしながら楽しそうに作成しておられた様子が微笑ましく、お母さん達も周りの方と子育ての話しながら和気あいあいと作成しておられました。完成後、子ども達も嬉しそうに見せてくれ、参加者からも「親子でゆっくり楽しみながら作れてよかった。」と感想をいただきました。

コロナ禍の生活が続いている中だからこそ、改めて親子で、ゆっくり過ごす時間、他のお母さん達とも交流する大切さを感じた交流会でした。



南部

令和4年6月19日(日)  
参加者46人

綴喜連合母子会 神村 有美

今回は綴喜連合母子会が皆さんをお迎えする準備で、当日は、ウェルカムドリンクでは無いけれど、フルーツポンチ作りから始めました。

子ども達は折り紙工作の先生と可愛いカゴ作りをし、お母さん達は『ひとり親のための家計セミナー～教育費編～』で、子育てに必要なお金の話を聞きました。保育園から大学まで、教育費にいくらかかるのか?、所得割、均等割などの用語、京都府の給付金、教育支援制度、給付型奨学金など知っておきたい話ばかりでした。

質問にも熱が入り、時間が足りないくらいでしたが、「とても役に立って聞けて良かった」と参加された方は喜んでおられました。

将来の収支を予想してお金を有効活用する、使い方の優先順位と予算配分を考慮することが大切だと教えて頂き、有意義な内容でした。



ブロック別懇話会

平成29年より始まり、北部・中部・南部の地域毎に支会役員や母子連絡員の皆さんが集い、それぞれの地域特性に応じた活動や取り組みについての情報交換や勉強会、地域の関係団体との連携強化の取り組み等を行っています。

北部

令和4年7月17日(日)  
参加者19人

宮津市母子寡婦福祉会 早栗 百合子

舞鶴と京丹後の中間の宮津で、母子部交流会と同じ日に開催しました。3支会の地域間交流、情報交換が目的です。

いきいきふれあい事業の場所や内容が大切で、その参加から入会につながった方がいること、居場所で英検2級に合格した子がいることや食育を意識して役員が取り組んでいること、夢基金を利用して遠方へ行かれる楽しい企画をされたところなど、各支会での活動を聞くことができました。

また、昨年の生活必需品配布事業ではみなさんに喜んでいただき、会員が増えるきっかけになっただけでなく、それまで会えなかった会員さんにも会えて交流することができたなど、いろいろな意見交流ができ、大変意義のある懇話会でした。



中部

令和4年9月25日(日)  
参加者17人

福知山市母子寡婦福祉会 土田 泰子

コロナ禍、開催を思案しましたが、無事に開催することができました。

NPO法人おひさまと風の子サロン足立喜代美氏に「子育て支援活動と支援者として大切にしていること」をテーマとした講演を聞きました。最初の小さな活動から現在に至るまでのお話を聞くと、母子会の活動にもつながるものを感じました。身近でも起きていた模索中の課題にも少し道が開けたような気がしました。母子会もお母さん、子どもたちとのつながりの輪を広げることができたら、と思います。

講演後の交流会では、参加者それぞれの想い、支会の活動や取り組みなどをお話いただき、今後へと気持ちを新たにしました。



南部

令和4年9月25日(日)  
参加者29人

相楽連合むつみ会 巴田 明美

京田辺市社会福祉協議会 森田里佳氏を迎え《ヤングケアラーについて》の勉強会を実施しました。

お手伝いとの違いは、子どもの時間を束縛するかどうかで、学習・進学・友達関係・身体状態にまで影響し、18歳以降も続く可能性があるのが長い目で支援が必要であることを知りました。声掛けや話を聞き、民生委員や社協などのチームで支援を考えていく必要があるのですが、関係機関の横の繋がりが不十分でたらい回しになるケースがあるという課題の発言もありました。

支援者が精神的に負担を負うことが無いようにチームで相談しながら行うことも必要です。

事例を多く取り入れた内容で、とても分かりやすく、今後の母子会活動に注意すべき点を学ぶことが出来ました。



ヒントは居場所や日々の会話から  
母子役員と話し合っ作りあげる  
舞鶴市母子福祉会 常塚 朋子

舞鶴市母子福祉会は、舞鶴市、舞鶴市社会福祉協議会様や会員の皆様に支えて頂きながら、東舞鶴・西舞鶴の2か所での子どもの居場所づくり事業、クリスマス会、料理教室、講演会などを行っています。

昨年に引き続き、今年も京都府からの委託を受け、食料品・生活必需品等配布事業では、新米や即席食品、生活用品などを配布しました。きれいに洗えたかの目安になる手洗いスタンプはコロナ感染予防対策を意識したもので、虫よけスプレーは外遊びの時に役立つもので、こどもの居場所や日々の会話をヒントにして、セットに入れました。「本当に助かり嬉しいです」などの声を聞き、みんなが喜んでくださって嬉しい限りです。

12月3日のクリスマス会には、96人の申込み、参加がありました。パワフルなバンド演奏と子ども達の元気な声でビンゴゲームをして楽しく盛り上がりました。母子役員を中心に、いろいろ話し合いをしてこそ作り上げることができました。クリスマス会には京都府信用漁業協同組合連合会からも来てくださり、子ども達に図書券をくださいますが、こちらは毎年、新入学生にランドセルのプレゼントでも応援していただきます。

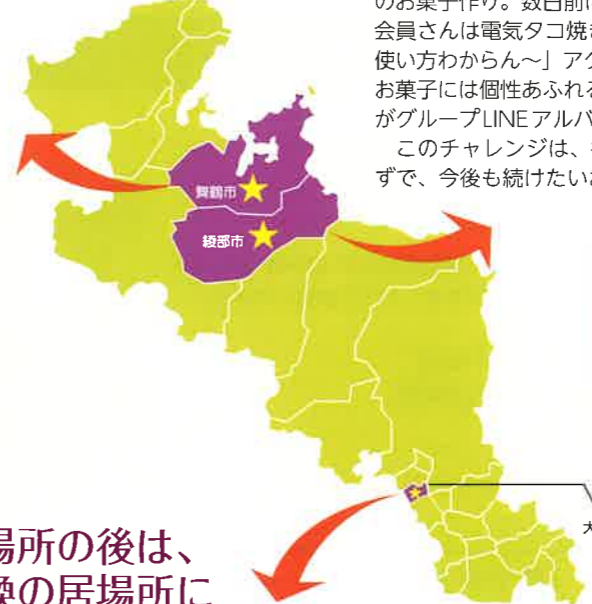
今年度の居場所づくり事業も残り3か月、3月末まで子どもたちをしっかり励ましなが支えていきます。コロナのことを気にせず活動できる日が一日でも早く来ることを願っています。



クリスマス会のバンド演奏



梨狩り



大山崎町



子どもたちの居場所の後は、  
親たちの情報交換の居場所に

大山崎町三つ和母子会 中島 晴恵

「こんばんわー! うーん、いい匂い! 今日のメニューは何?」元気な声と一緒に調理室を覗きます。毎週水曜日の「居場所」の始まりです。学校で「居場所って面白い。」と子ども達が友達を誘い、参加者が増え、新しい人のつながりが作られています。

「最初に宿題。」と、遊びたいけれど宿題に向かいます。「ちょっと来て〜」すぐに呼ぶ声が上がります。「竹取物語覚えたで、聞いて。」「百マス競争しよう。」周りのお友達の様子を見て、学年が上の問題にチャレンジする子もいます。「答え教えて〜」だめだめ。絵を描いたりヒントを出したり。「やった〜、もっと問題出して〜。」

宿題を終えた後の遊びが楽しみで、絵しりとり、動物将棋、だるまさんが転んだ…。ルールの違いで口論が始まっても大きな喧嘩にはならなくなってきました。じっくり話を聞いていると、落ち着いて話す力もついてきていると感じます。縦割り集団の中で、いろいろな事を経験しながら、学力だけでなく心も育っています。進路の話など、年齢の近い大学生に思いを素直に出せるのも居場所のいいところです。

地域の方にはお肉やお米、野菜をいただき、体験の先生をお願いしたりします。子ども達は、地域の方に出会い、親ではない大人達に褒められ、自信につながっています。

子ども達が楽しんだ後は、親たちの情報交換や施策説明、意見・要望などを聞かせていただく場となっています。



京都府母子寡婦福祉連合会には、  
18の支会があります。  
各地域の支会の活動をご紹介します。

リモート活用で楽しいチャレンジ  
~コロナ禍の今だからこそ~

綾部市母子寡婦福祉会 吉崎 由美

綾部支会の恒例行事は寡婦・母子が交流しながら楽しめる寄せ植え教室。お正月を華やかな玄関で迎えたい皆さんに大人気。それに加えて登場したのがハロウィン♪今ドキの若い母子さん、仮装して「映える」写真を撮るのが大好き。とはいえ、感染症拡大が懸念される中でワイワイにぎやかな行事は、実施前もその後も心配が尽きないのが現実。

そんなコロナ禍でもできる取組みを!と頭をひねってくれた母子役員の企画で面白かったのが「お家で作ろう♡バレンタインお菓子」です。混ぜて焼くだけのチョコマフィンキットを希望者に配布。参加者のグループLINEを事前に作っておき、時間が来たらスマホ前に集合。ビデオ通話機能でみんなの様子を見ながら「卵を割るよ」「牛乳入れて」「油入れたら混ぜてね」「ちょっと待って!油60gって何ccなん?」「水とは比重が違うから。調べて!」「これ、理科の勉強やん!」ワイワイキャッキャ言いながらのお菓子作り。数日前に「家にオープンなかった!」と気づいた会員さんは電気タコ焼き器で挑戦。「久しぶりすぎてオープン使い方から〜」アクシデントも笑いに変えて、焼きあがったお菓子には個性あふれるトッピングを。そして、素敵な作品たちがグループLINEアルバムに次々とアップされたのです。

このチャレンジは、役員にとっても場所・準備・片付け要らずで、今後も続けたいお気に入り企画となりました。

お得な

# マイナポイント 申し込み締め切り間近!!

(2023年2月末まで)

## マイナポイントって何?

マイナンバーカードを新規に作ったり、マイナンバーカードに「健康保険証の利用登録」「公金受取口座の登録」をすることによりもらえるポイントのことで、キャッシュレス決済サービス<sup>(※)</sup>に連携することにより、QRコード決済(OO Pay)や電子マネーなどとして使うことができます。

## いくらもらえるの?

健康保険証としての利用申込みで7,500円分  
公金受取口座の登録は7,500円分  
※上記2つの場合は登録のみです。

マイナンバーカードの新規取得等でもらえる最大5,000円分のポイントは、マイナポイント申込後のチャージまたは決済サービス(クレジット決済など)が必要で、その期限は2023年2月末までです。

※ポイントをもらうには、QRコード決済(OO Pay)や電子マネー(交通系のICカードなど)、クレジットカードなどが必要です。

## どうやって手続きするの?

スマートフォン…マイナポイントアプリ  
パソコン……………マイナポイント申込みサイト  
マイナポイント手続スポットが市区町村窓口や郵便局、携帯電話会社店舗などに設置されています。  
※申し込みは無料です。

## マイナンバーカードを作ったら、

お得にポイントを  
もらいましょう



## 母子寡婦福祉指導者研修会について

今回は「母子家庭の介護支援の実態」をテーマに京都華頂大学 副学長 流石智子 教授にご講演いただき、意見交換会を行う予定です。ぜひご参加ください。

日 時：令和5年2月19日(日) 13時30分~16時  
場 所：京都府立総合社会福祉会館(ハートピア京都)  
参加対象者：各支会の役員、母子連絡員など



## 「母子会」って いいこといっぱい

母子会は、あなたと子どもたちが安心して暮らせる社会づくりを目指して活動しています。令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症や物価の高騰の影響もありましたが、京都府の食料品・生活必需品等配布事業を受けて、会員の皆さんにお届けすることができました。毎年はいきいきふれあい事業として、バスで出かけて、体験や研修、交流を行っており、他にも各母子会で行事などを開催しています。同じ境遇、同じような体験をしてきた仲間です。あなたの近くにも母子会があります。どうぞお気軽にお問い合わせください。お問合せは、各地域の母子会、または京都府母子寡婦福祉連合会事務局(電話075-223-1360)まで



あけましておめでとうございます。  
コロナ対策に苦慮しながら、各支会の皆さまの趣向を凝らした行事が積極的に行われ、活気づき、ふれあいの大切さを改めて深く感じさせていただきました。  
3月の新入学児童のつどいも開催予定です。お会いし、話して、ふれあって。お子さまの笑顔を楽しみにしています。  
皆さまにとって、より素敵な一年になりますようお祈り申し上げます。  
(北野)

## 社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会

発行責任者 佐竹 幸子

〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地

京都府立総合社会福祉会館内

TEL 075-223-1360 FAX 075-950-1503

<https://hitorioya.kyoto/>

